

災害に備える

7・18水害を経験された方々のお話や町中に残されているどこまで水位が来たのか示した慰霊碑など過去の伝承がこれからの水害に備える部分で大きな役割を果たしています。また、そのことに加え、最新の情報を組み合わせることでさらなる備える力の向上が図られます。

令和5年(2023年)6月2日(金)には有田川町において、24時間総雨量が約350〜400mm、最大1時間降水量が約70mmを記録し、各所に大きな被害をもたらしました。出水期を迎え、さらなる警戒が必要となります。最新の災害規定や気象庁から発信される様々な情報について知っておきましょう。

捨てずに
各家庭に保存



※最近町内へ転入された方など必要な方は総務課(吉備庁舎)までお問い合わせください。

●ハザードマップとは

洪水や土砂災害のリスクを地図にまとめた「有田川町洪水・土砂災害ハザードマップ(吉備エリア・金屋エリア・清水エリア)」を各世帯へ配布、また町ホームページ、町公式アプリ「ありだがわ防災行政ナビ」にてデータ配信を行っています。

●ハザードマップの活用方法

・自宅やよく使う場所を確認する

まずは自分の住んでいる家の災害想定を確認してください。それに加えて職場やよく買い物に行く場所、子どもの学校などの危険性も併せて見ておきましょう。

・避難場所や避難経路を確認する

近くの避難場所がどこにあるのか、避難経路はどのルートが安全なのか各家庭で確認し、話し合っておきましょう。

6月2日豪雨

令和5年(2023年)6月2日(金)、和歌山県北部に線状降水帯が発生し、非常に激しい雨が同じ場所に降り続いているとして、和歌山県では初めて「顕著な大雨に関する情報」が発表されました。

●線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなし、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作りだされる線状に伸びる長さ50〜300km程度、幅20〜50km程度の強い降水を伴う雨域を「線状降水帯」と呼びます。

●顕著な大雨に関する気象情報

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所でも降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。

●情報が出されたら

崖や川の近くなど、危険な場所(土砂災害警戒地域や浸水想定区域など災害が想定される区域)にいる方は、町から発令されている避難情報に従い、直ちに適切な避難行動をとって

ください。周りの状況を確認し、避難場所への避難がcaえて危険な場合は少しでも浸水しにくい高い場所に移動するなど、身の安全を確保してください。また、「顕著な大雨に関する情報」を待つことなく、災害発生の危険度の高まりを示すキキクル(危険度分布)や水位情報などを確認し、少しでも危険を感じた場合は自ら安全な場所へ移動してください。

●キキクル(危険度分布)とは

気象庁が発表する防災気象情報の一つで、大雨による土砂災害・浸水害・洪水災害の危険度の高まりを面的に地図上で確認できるシステムです。「土砂キキクル」、「浸水キキクル」、「洪水キキクル」の3種類があります。強い雨が降ってきたときに、土砂災害・浸水害・洪水災害などの危険度を5段階で色分けして地図上に表示します。またリアルタイムだけではなく、数時間先の危険度が予測されるため、今いる場所から避難の必要性を判断するのに役立ちます。気象庁のホームページから確認できます。